

# 小児科・新生児科

**“島根の砦”の市中急性病院小児科・周産期新生児医療センターとして、市中感染症を中心とした急性疾患と、早産児・集中治療を要する新生児に対応しています！**

私たち小児科・新生児科は、島根大学小児科と連携し、大学小児科では稀少難治疾患に、当科では“コモンディーズ”の急性疾患と早産児・重症新生児に対応することになっています。

小児科では年間1,000例を超えるお子さんの入院を引き受けています。小児科入院例の特徴は、(1)6歳以下の乳幼児例が多い、(2)市中感染症を中心に幅広い分野の症例が多彩で豊富なことです。小児市中感染症はもちろん、日常遭遇する小児疾患に対して、国内外のガイドラインとこれまで自分たちで培ってきたエビデンスを基に、“明確な臨床診断のもと、安全で有効、しかも効率の良い治療”が行えるよう、院内での“小児診療指針”を作成しました。救急科(ER)での小児診療の際、担当してくださるすべての先生方に参考にしていただいています。臨床研修医の皆さんも、この指針を「標」に、1か月の小児科研修とERでの小児への対応を行っていただきます。

新生児科の入院は年間400例ほどとなっています。総合周産期母子医療センターとして、県内でもっとも多く超早産児、超低出生体重児を受け入れ、年間30例前後の人工換気症例の治療をしています。周産期(新生児)専門医・指導医として、赤ちゃんに優しい医療を目指しています。小児科研修期間にはハイリスク児の分娩立ち合いなど、小児科医、総合医としても最低限の手技の理解を目指してもらいます。

小児科医は、「こどもの総合診療医」です。臨床研修医の皆さんは、将来の島根の医療、そして小児医療を担う「島根の宝」です。短い研修期間でも、臨床研修医の皆さんが立派に「こどもの総合診療医」として巣立っていけるように、そして、小児科専門医を志す人が一人でも多く現れるように、私たちは臨床指導に力を注ぎます。

